

戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) 異能 (INNO) vationプログラム 補足説明

令和3年6月
国際戦略局
技術政策課

ポストコロナ時代における世界的な産業・社会変革が起きる中，スタートアップ前の優れたアイデアを発掘し、世界規模の新たな価値を創造する大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな破壊的イノベーションへの挑戦を支援。

総務省

予算額：令和2年度当初 3.0億円

委託

プログラム評価委員(外部有識者)：プログラムの評価、受託機関の執行適正性評価、スーパーバイザー等委員会の承認等

評価
・
審査

受託機関

公募

我が国発の破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成

- ・対象者：破壊的なICTイノベーション課題に挑戦する者。
- ・応募要件：個別連絡先が存在する者
(年齢・国籍・居住地不問)
自薦・他薦。

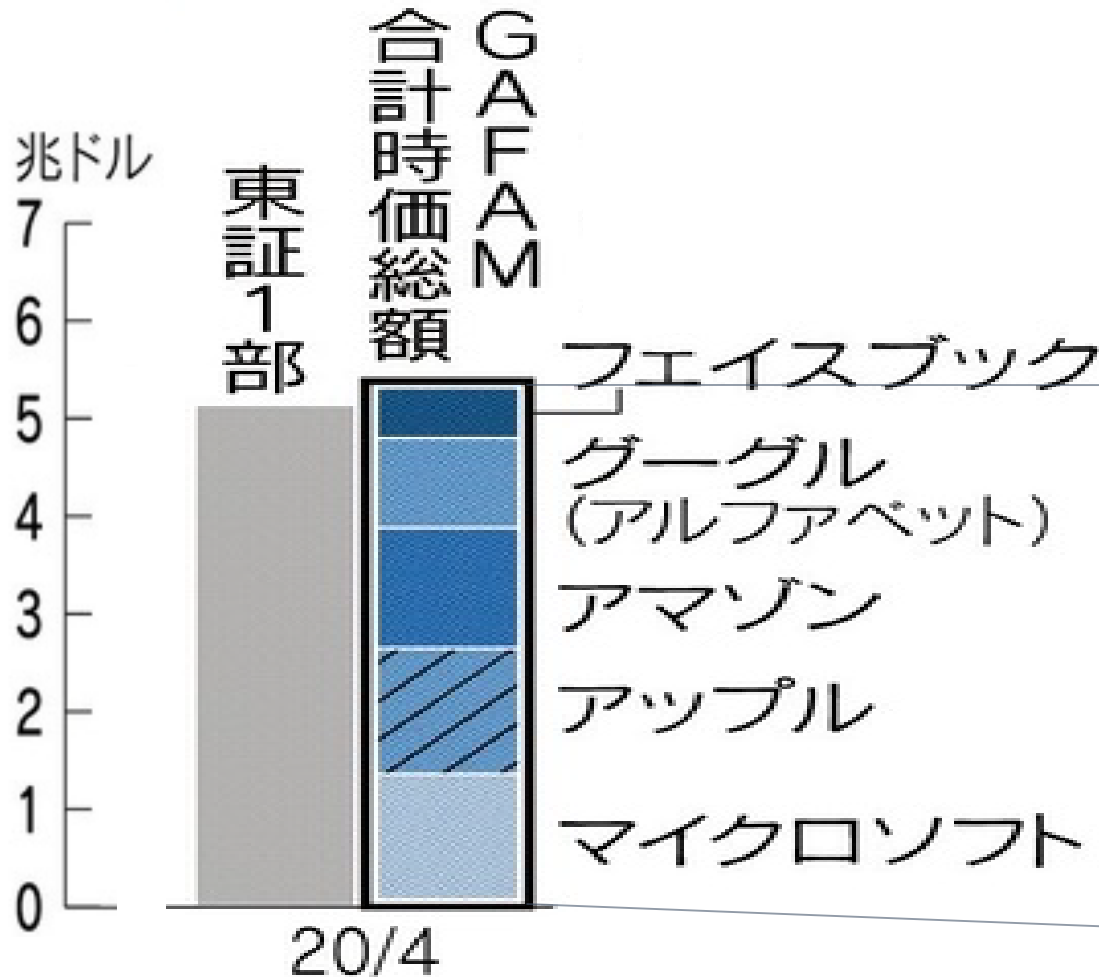
挑戦

- ・支援額：300万円（上限）
- ・期間：1年間（上限）
- ・挑戦に専念できる環境を整備

卒業

卒業生<異能β>
国際的な発信や展開・
知財保護等を支援

米国ICT企業GAFAM(Google, Amazon, Facebook, Apple, Microsoft) の時価総額は約560兆円。東京証券取引所1部上場企業約2170社の合計550兆円を上回る (R 2)。



ICTの破壊的イノベーションは、全世界に波及するため、極めて大きな経済効果で国に大きな富をもたらす。

世界的大企業になるまで 約20年

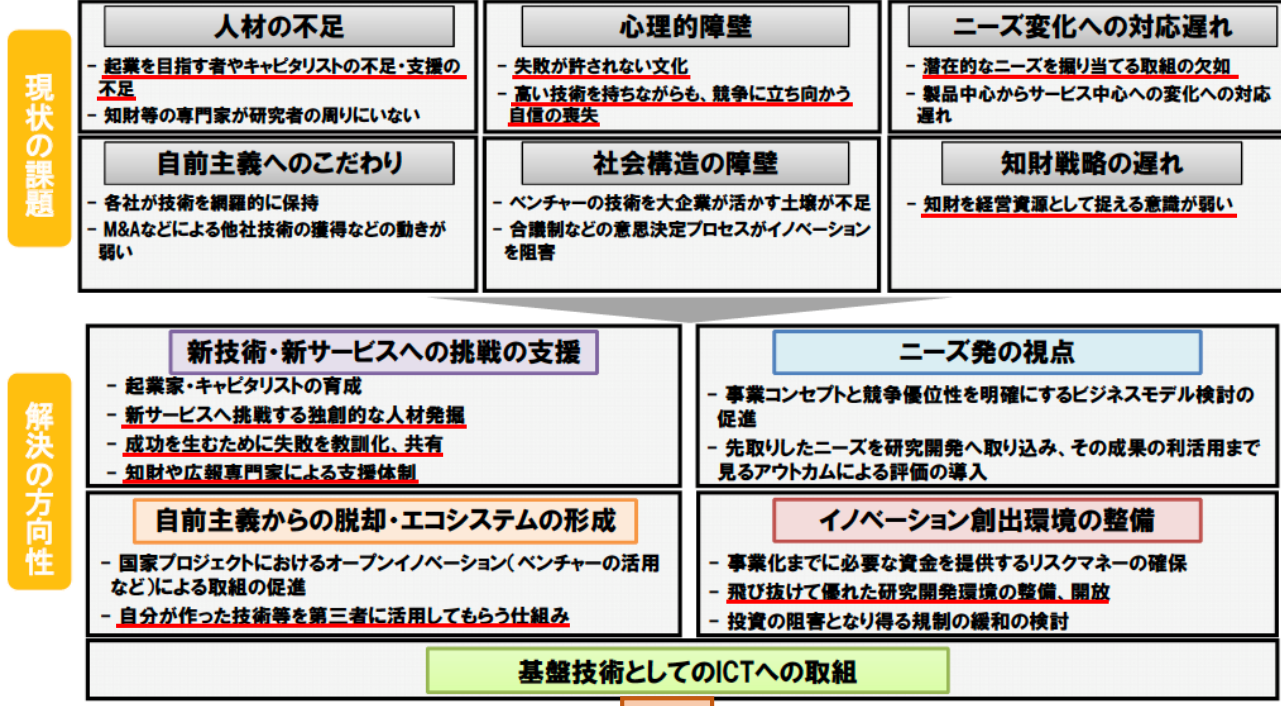
企業名	設立年	売上高 (R2)
Facebook	2004年2月 (17年前)	約9兆円
Google	1998年9月 (22年前)	約20兆円
Amazon	1994年7月 (26年前)	約42兆円
Apple	1976年4月 (45年前)	約30兆円
Microsoft	1975年4月 (46年前)	約15兆円

我が国には、協調性がある・信頼性を重視し慎重に推進するなどの考えと、「出る杭は打たれる」「失敗を恐れる」などの文化が存在し、破壊的ICTイノベーションが生まれにくい状況。

情報通信審議会 イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方 最終答申 (H26.6.27)

イノベーション創出に向けた現状の課題と解決の方向性

- わが国が安定的にさらなる経済成長を遂げるため、わが国発の破壊的イノベーションの創出を実現するための方策を調査・検討。
- 「課題」については改善の兆しはあるものの、解決にはまだ至らない状況。



出る杭を認め、失敗を恐れずに挑戦する雰囲気や国が率先して醸成していくことが重要。

総務省 令和2年度予算：3.0億円

(戦略的情報通信研究開発推進事業
(SCOPE) 12.2億円の内数)

① チャレンジャーの発掘と支援

- ・ポストコロナ時代における世界的な産業・社会変革が起きる中、スタートアップ前の優れたアイデアを発掘し、世界規模の新たな価値を創造する大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな破壊的イノベーションへの挑戦を支援。(最長1年。最大300万円。)
- ・卒業評価を通過した者を異能βとして認定。

<応募件数>	<応募件数累計>
H26 : 710件	55,000件
R2 : 18,154件	(H26-R2)
(26倍増加)	

② 官・民・地域・グローバルの連携

- ・民・地域・グローバルと連携した発掘のエコシステムを推進。
- ・挑戦後は、民・地域・グローバルと連携した地球規模産業に向かうエコシステムを推進。

総務省

予算額：令和2年度当初 3.0億円

委託

プログラム評価委員(外部有識者)：プログラムの評価、受託機関の執行適正性評価、スーパーバイザー等委員会の承認等

評価・審査

受託機関

我が国発の破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成

公募

挑戦

卒業

1

- ・対象者：破壊的なICTイノベーション課題に挑戦する者。
- ・応募要件：個別連絡先が存在する者(年齢・国籍・居住地不問)、自薦・他薦。

- ・支援額：300万円(上限)
- ・期間：1年間(上限)
- ・挑戦に専念できる環境を整備

卒業生<異能β>
国際的な発信や展開・
知財保護等を支援

破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成する裾野の拡大

官・民・地域・グローバル連携による異能vationネットワーク

2

拠点が
広報・応募

地域とグローバルの
ネットワーク拠点
53ヶ所

ジェネレーションアワード
(協力協賛企業による表彰)
ノミネート223件
受賞33件

協力協賛企業
182団体
グランドチャレンジ
(賞金総額約1.2億円)

民間からの
スタートアップ
支援に移行

破壊的イノベーションに関連する他省庁施策との比較

他施策は職業研究者（e-Rad研究者）を対象としているのに対し、異能vationは多様性を重視し全国民が対象であることが特徴。

※e-Rad：府省共通研究開発管理システム。プロの研究者（職業として研究をしている者）が所属機関から登録を行う。登録者数35.7万人

施策名	施策概要・特徴	R2 予算額 (億円)	国民への多様性
異能(inno)vationプログラム 【総務省】	スタートアップ前の優れたアイデアを発掘、世界規模の価値を創造する破壊的ICTイノベーションへの挑戦を支援。官民・地域・グローバルで連携した発掘エコシステムを構築	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 対象：国民約1億人（過去の実績5歳～95歳） 評価：【業績・年齢・経歴・所属・国籍・性別】不問 日本語・英語・現地語での応募（28カ国） 自薦・他薦
革新的研究開発推進プログラム（ImPACT） 【内閣府】	将来の産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす革新的な科学技術イノベーションの創出を目指し、ハイリスク・ハイインパクトな研究開発を推進	110 (550 (基金) /5年)	<ul style="list-style-type: none"> 対象：e-rad登録研究者(35.7万人) 評価：提案内容のほか、過去の実績等を考慮
ムーンショット型研究開発制度 【内閣府】	我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発（ムーンショット）を推進	230 (1,150 (基金) /5年)	<ul style="list-style-type: none"> 対象：e-rad登録研究者(35.7万人) 評価：提案内容のほか、過去の実績等を考慮
未来社会創造事業 【文部科学省】	非連続イノベーションの創出を目指し、将来の基盤技術となる技術テーマを国が特定し、公募で選ばれたPMが挑戦的な研究開発を推進	77	<ul style="list-style-type: none"> 対象：e-rad登録研究者(35.7万人) 評価：提案内容のほか、過去の実績等を考慮
創発的研究支援事業 【文部科学省】	破壊的イノベーションにつながるシーズを創出する潜在性をもった科学技術に関する研究分野を対象に、失敗を恐れず長期的に取り組む必要のある挑戦的・独創的な研究開発を推進	71 (500 (基金) /7年)	<ul style="list-style-type: none"> 対象：e-rad登録研究者(35.7万人) 評価：提案内容のほか、過去の実績等を考慮
NEDO先導研究プログラム 【経済産業省】	エネルギー・環境分野及び新産業創出に結び付くハイリスク・ハイリターンの研究開発を、PM主導の下で産学連携により推進	45	<ul style="list-style-type: none"> 対象：e-rad登録研究者(35.7万人) 評価：提案内容のほか、過去の実績等を考慮
安全保障技術研究推進制度 【防衛省】	将来の防衛装備品開発に資する大学等の独創的な研究開発を推進	101	<ul style="list-style-type: none"> 対象：e-rad登録研究者(35.7万人) 評価：提案内容のほか、過去の実績等を考慮

①KPI進捗

目標：応募倍率10倍以上
 ※一般に政府系R&Dは3-5倍程度

	倍率
H26 (スタート時)	71
R2	166

KPIは2倍以上の成長

令和2年度 通過倍率 166倍

②KPI効果

目標：・官・民・地域・グローバル各々において参加する団体がそれぞれ1以上。
 ・全応募数のうち、社会展開・実装を目指す課題の割合5割以上。

	民 (協力協賛 企業)	地域 (国内NW拠 点)	グローバル (海外NW拠 点)
H26 (スタート時)	67	-	-
R2	182	51	2

KPIは2倍以上の成長

	社会展開・実装を目指す 課題の割合
H26 (スタート時)	32.5%
R2	91.2%

KPIは2倍以上の成長

①効果的な評価・支援システムの確立

評価システム

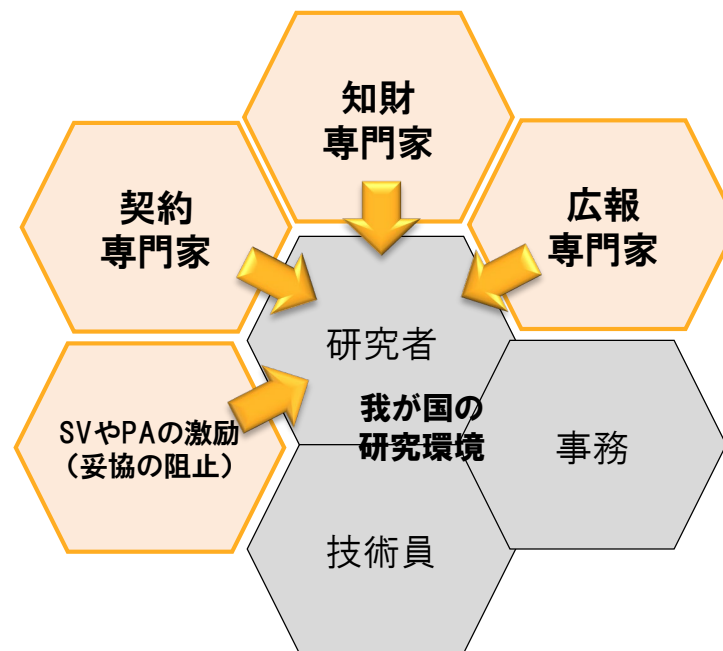
- 1,000件を超える応募課題に対しスーパーバイザー10名全員が全件を詳細に閲覧可能で、応募者の年齢・国籍・過去の業績・所属機関を伏せた上で評価するツールを構築。
- 破壊的イノベーションを起こすような課題は、既存の価値や評価基準で測ることができないため、スーパーバイザーの経験に基づく直感により評価。
- 評価の観点の目安は以下の通り。
 - 独創性：破壊的な技術課題に挑戦する個人に相応しいアイデアや特徴を持っているか。
 - 自己追及性：他者に根拠や理由付けを求めない自己追及的な姿勢を持ち合わせているか。
 - 認識の明確性：挑む技術課題についてその可能性や問題点、解決方策、あるいはどこが未知の領域なのかについて明確に認識しているか。
 - 不屈の精神：挑む技術課題に絶対感を持ち、成功するまで挑み続ける気力があるか。

H26-R2までの総務省オリジナル施策に対する応募課題は累計で7,685件。

支援システム

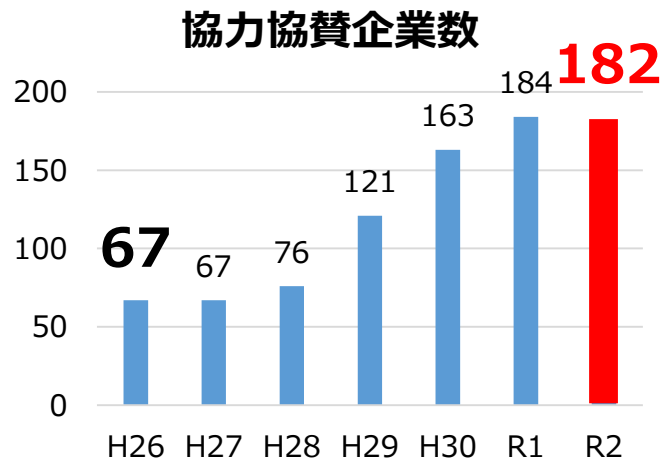
- 一般的な我が国の研究環境と比較して米国型の、挑戦に専念できる環境を構築。広報・知財などの支援体制を構築。さらに、**経費執行や物品の管理等の複雑な事務（例：物品購入の際の相見積を取得）を事務局が代理で実施している。**

挑戦に専念できる環境



②官・民・地域・グローバルが連携する異能vationネットワークの構築。

- ・ 協力協賛企業数はH26の67団体からR2は182団体と3倍に増加。



- ・ 民間の自主的な取組と連携。
ちょっとした変わったアイデア等を協力協賛企業が表彰する「ジェネレーションアワード賞」の設置。
- ・ R2はノミネート223件、受賞33件。

参考： ジェネレーション (generation) という単語には、同時代の人々、ある思想・行動・分野などを共にする人々、機械・商品などで、従来の型を発展させた型のもの、という意味だけでなく、誘発、発生 (ジェネレートする) という大きな意味もあることから、一億総活躍時代に向けてちょっと変わったアイデア・技術を持つあらゆる世代の異能な人々や企業が、このアワードをきっかけに多くの方々と結びつき誘発・発生することで、日本の未来を創る観点から、「ジェネレーションアワード」と名付けたもの。

H29からR2までの官民地域グローバル施策に対する応募課題は累計で47,315件。

**応募者年齢層は5歳～95歳。
海外28ヶ国からの応募。**

① 多彩な才能の発掘や応募者が挑戦する環境整備といった、個人を生み出す側面における成果

卒業生の活躍

- ・ 挑戦後の評価を経て卒業生（異能β）を69名選出。
- ・ 卒業後に起業する割合7割（プロの研究者を除く）。
- ・ 合計62億円の資金調達（～R2）。

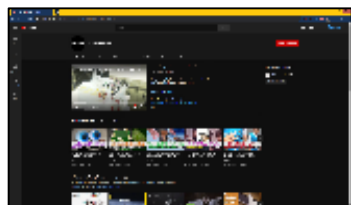
異能β (卒業生)

世界規模産業に向けて挑み続ける異能βへの支援

- ・ 特許や起業における弁護士等専門家の整備
- ・ コロナ時代の新たな情報発信支援：
インフルエンサーを活用したオウンドメディアを用いた世界規模の発信とマッチング



ウェブサイト
「InnoUvators」
<https://innouvators.com>



異能β専用YouTubeチャンネル
異能βの尖った技術を各種SNSにより世界規模で発信。
100万UUを目指す。

課題設定型コンテストの設置

- ・ 協力協賛企業が自ら設定する課題に失敗をおそれず挑戦する課題設定型コンテストを設置。
- ・ 企業が拠出する賞金総額 約1億2千万円（R2）

課題例

サントリーホールディングス株式会社

健康改善を目的にしたユーザビリティを格段に高め、今まで考えもつかなかった生体計測技術を開発
30,000,000円

株式会社ジンズ

入力操作の制約を取り払う目の動きが分かる革新的なメガネを使って、目だけで文字入力チャレンジ
3,000,000円

Radiotalk株式会社

通勤、通学中に思わず聞きたくなってしまう今まで聞いたことのない音声（音楽は除く）
100,000円

マイルストーン賞
(部分的に達成)
受賞

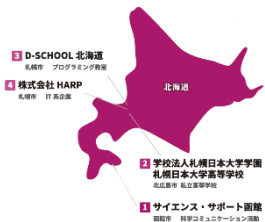
現在のべ1617人がチャレンジを表明し、
プライズ受賞者：1人、マイルストーン賞受賞者：2人

②ICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成する側面における成果

- ・異能vationネットワーク拠点の拡大
- ・延べ652万人以上にリーチ（日本人口の6%以上）
- ・14億円相当の民間負担
- ・国際的に政府間で認知される水準に

・異能vationネットワーク拠点の拡大

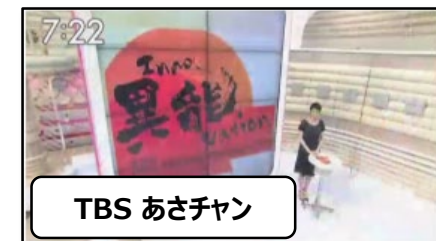
これらの取組がトリガーとなり、民間の自主的な取組が広がりを見せ、異能vationネットワーク拠点が53カ所まで拡大。地域毎の取組を推進。また、地域間の連携を推進し自主的にイベントを開催。



令和2年度の公募期間中に、北海道内の4拠点合同でイベントを開催。様子は地元のテレビニュース等でも紹介。

・延べ652万人以上にリーチ（日本人口の6%以上）

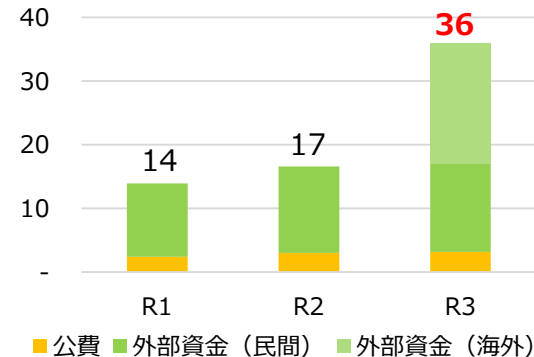
それぞれのネットワーク拠点からの発信のほか、TV番組報道・雑誌取材などで紹介。



・14億円相当の民間負担

民間による協力負担が年々拡大。国民・社会からの希求の大きさを反映している。

総額推移（億円）



・国際的に政府間で認知される水準に

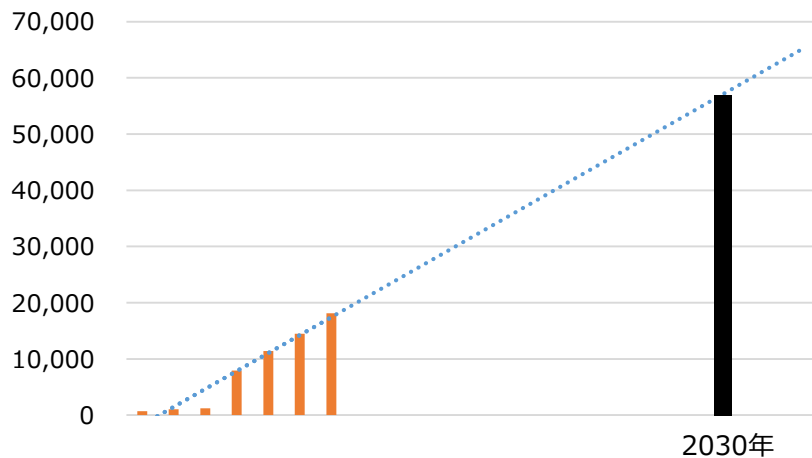


インドネシアと閣僚級のMOCを締結し、国際的に政府間で認知される水準に。インドネシアの取組は19億円。今後は他のASEANなどにも働きかける予定。

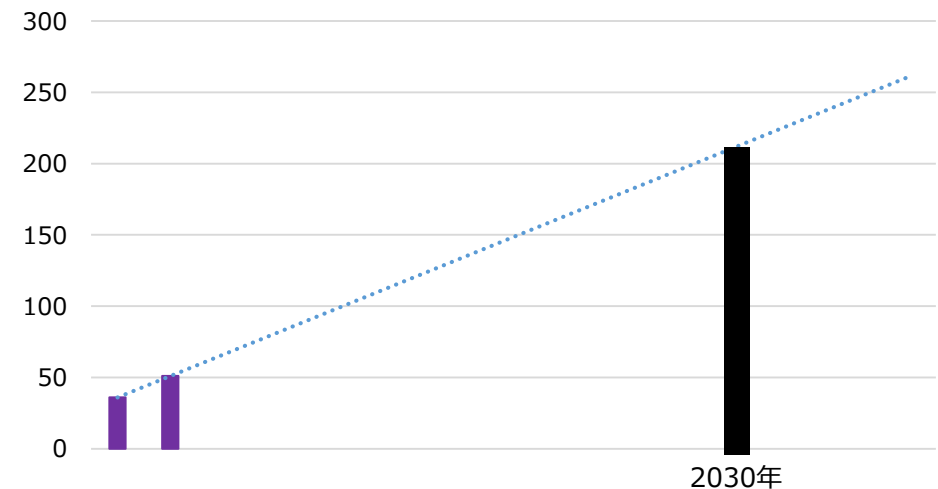
①②日本国民の誰もが知るプログラムとなり、学校や企業内で誰もが「失敗を恐れずに挑戦する」ことが浸透。

応募数、拠点数が拡大し、「失敗を恐れずに挑戦する」ことが浸透し、国が奨励しなくても良い社会に。国が根気よく継続することが重要。

応募件数予測



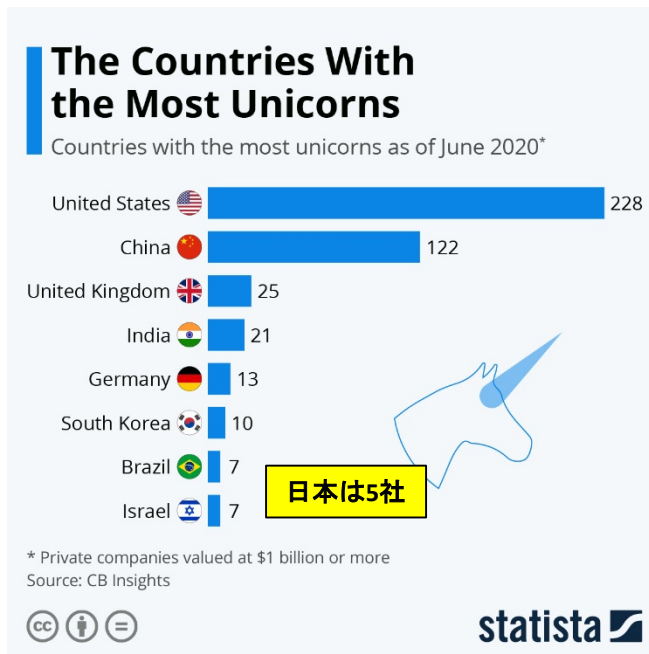
国内の異能ネットワーク拠点数予測



- ①②破壊的な世界規模の価値創造を生み出す異色多様な才能の発掘や応募者が挑戦できる環境を整備し、破壊的イノベーション創出のモデルケースを示すことで、我が国発の破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成。
- ②尖った才能の変わったことへの挑戦を認め褒める社会文化の醸成のため、破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成する裾野の拡大。

破壊的イノベーションに挑戦するものを育成

結果として、我が国におけるユニコーン数が増大（現状は以下の通り）

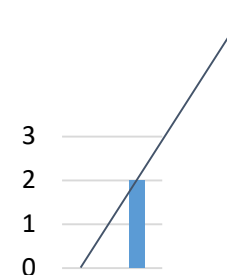


<https://www.statista.com/chart/6696/the-us-is-home-to-the-most-unicorns/> より

挑戦する雰囲気を醸成する裾野の拡大

海外拠点の数がアジアを中心に世界中に拡大し、当初から世界規模産業を目指すことが浸透

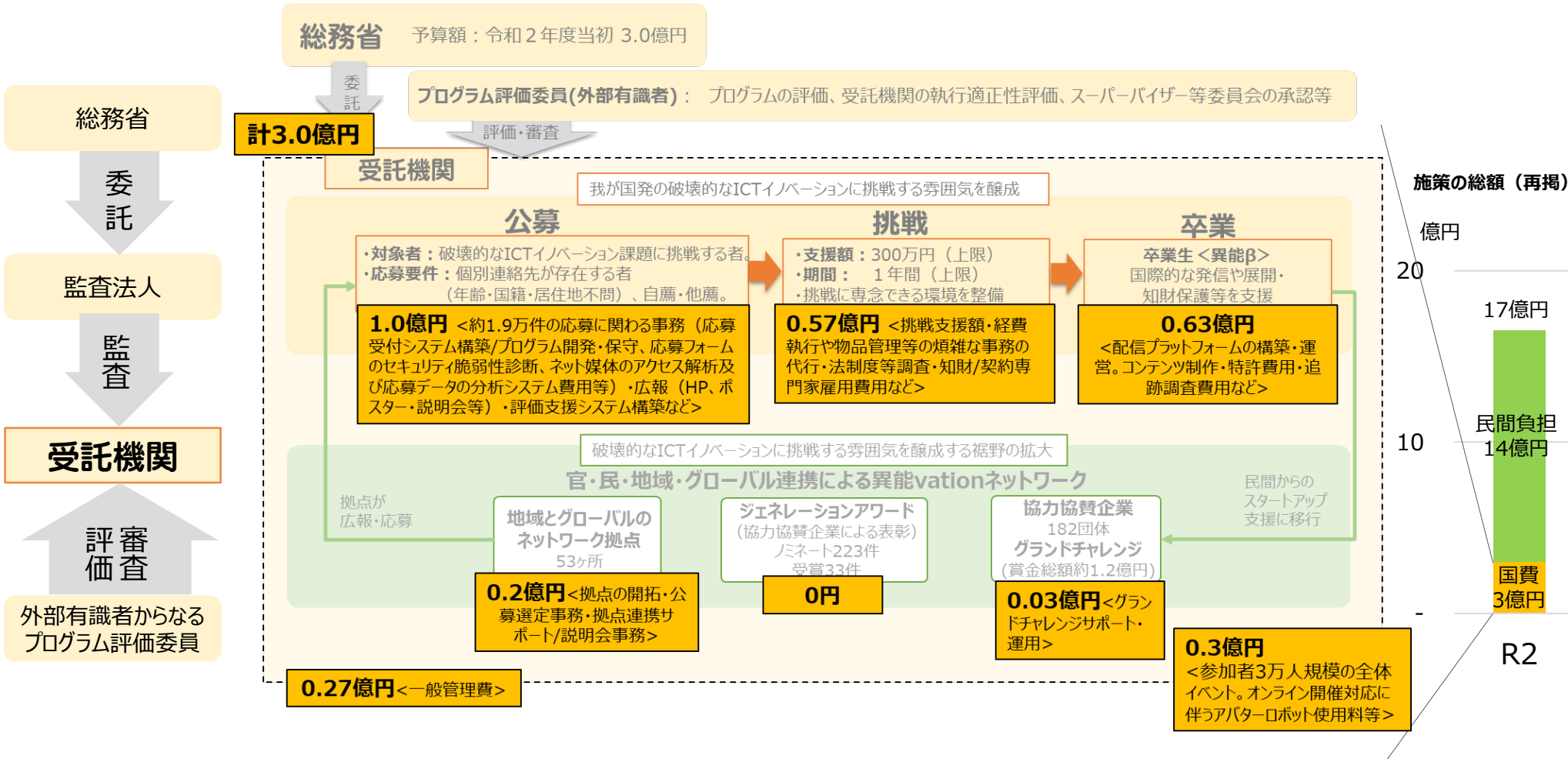
海外の異能ネットワーク拠点が世界中に拡大



R1 R2

○ 委託先における事業ごとの費用の執行状況を明らかにすべきではないか。

監査法人による監査と会計検査院による検査のほか、外部有識者からなるプログラム評価委員からの評価と審査を実施。



論点

○ 本事業の受託機関の適正な評価方法をどう設定すべきか。

情報通信審議会 イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方最終答申(H26.6)の内容を踏まえた具体的な評価項目を設定。

プログラム評価委員(外部有識者)

評価
審査

受託機関

評価項目	評価内容
1. 業務実施計画	
1	提案する業務実施計画には、妥当性及び効率性が認められるか（本業務の実施目的に対し、適切な業務実施計画が定められているか。）。
2. 業務実施体制と経費	
1	研究業務実施全体を通じて、総務省国際戦略局技術政策課と連携して、業務を実施するための十分な要員数や事務所の確保などの体制が構築されているか。
2	研究者からの質問等に対応するために必要な体制があるか。
3	業務実施費用の金額の妥当性（業務実施機関運営として適切かつ必要最低限の費用となっているか。可能な限り合理化されているか。）
4	その他、業務を適切かつ効率的に実施するための工夫があるか。
3. 提案業務内容	
①各業務実施課題共通	
1	業務の実施に当たって必要となる事務等の実施が計画されているか。
2	提案業務全体を通じ、技術課題に挑戦する者に対する支援等について、独創的な個性を十分に活かし、かつ、志気を保ちながら各人の「Ambitious Technical Goal」へ進めるような工夫がなされているか。
3	問題の発生を未然に防ぎ、また、問題が発生した場合は適切に対処できる法的措置等の仕組みが整備されているか。
②業務実施課題ア：「奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦」を支える事務局業務	
1	広報について、課題イの情報発信等と協力して本プログラムの課題公募・成果展開等に係る効果的な方法が提案されているか。また、全国各地における拠点を活かした広報手法となっているか。
2	技術課題に挑戦する個人の公募方法は、業務実施機関が本業務を安全に達成する観点から適切か。
3	スーパーバイザーについて、技術課題に挑戦する者達の憧れとなるような人材によるスーパーバイザー委員会が提案されているか。また、スーパーバイザーを支える体制は十分で、そのための費用は適正か。
4	スーパーバイザーの評価システム等は効率的かつ、申請・進捗状況を的確に管理する工夫がなされているか。
5	申請書類の管理等が的確に遂行されるよう、申請・進捗状況を的確に管理する工夫がなされているか。
6	提案者や技術課題に挑戦する者等からの質問や相談等への対応が、円滑に行われるための工夫がなされているか。対応するために必要な体制が構築されているか。
7	技術課題に挑戦する者の書類作成作業が少ない等、挑戦が効率よく行われるための工夫がなされているか。それらは同時に、研究不正等の発生を未然に防ぎ、問題が発生した場合は適切に対処し、業務実施機関の安全を確保する仕組みか。
8	技術課題に挑戦する者の特許や起業等に係る法制度面の相談に対応できる体制が構築されているか。
9	技術課題へ挑戦する者の独創的な個性を十分に活かし、かつ、モチベーションを保ちながら挑戦の目的に導くような工夫がなされているか。
10	イベント運営等で技術課題へ挑戦する者のモチベーションの向上を効果的に行うための工夫がなされているか。
11	異能マスターズの設置、運営する方法や現実及び仮想の場における立地等について、業務実施課題ウにおける異能vationネットワークの本部としての性格を兼ね備えているか。また、異能マスターズにおけるメンバー同士の交流や起業支援等の手法は適切かつ効果的か。
③業務実施課題イ：異能vation活動の地球規模での情報発信業務	
1	1万件以上の応募につながるような、異能マスターズメンバーの取組等を地球規模で情報発信する手法は効果的か。
2	異能マスターズメンバーの取組に関する知的財産権を保護するための工夫がなされているか。
3	地球規模での情報発信による効果を測る指標は適切か。
④業務実施課題ウ：日本全国をはじめとする各地の「異能候補生」の発掘業務	
1	計上されている費用は、業務実施機関が事務の実施に要するもののみか。また、金額は適正か。
2	地方自治体、異能人材、企業が参加する拠点で構成される「異能vationネットワーク」は、異能vationの目的を達成するための効果的な工夫がなされているか。
3	異能vationネットワークの構築候補地及び地域連携機関の候補の選定に当たって、適切な公募方法を企画し実施できる工夫がなされているか。
4	Xプライズ方式による地方の特色等を反映した課題設定型コンテスト等の「異能vationグランドチャレンジ」例（イメージ）は、異能vationの目的を達成するための効果的な工夫がなされているか。

○成長戦略フォローアップ（令和2年7月17日閣議決定）

1. （2）xiii）産業界におけるSociety5.0時代に向けた人材育成・活用：「**ICT分野における地球規模産業の創出に向け、「異能 vation」プログラムを見直し、破壊的イノベーションに挑戦する人材を発掘・支援するネットワーク支援等とも併せて、破壊的な挑戦の世界への展開を促進する。**」

○統合イノベーション戦略2020（令和2年7月17日閣議決定）

第2章（3）②＜破壊的イノベーションを目指した研究開発＞：「**異能(I N N O)vationの取組を通じ、破壊的な地球規模の価値を創造する、大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援する。人工知能には予想もつかないような“ゼロからイチを創る”異色多様な破壊的イノベーションに挑戦し続ける人材の地球規模の展開を支援するとともに、全国ネットワークを通じた異能人材の育成に取り組む。**」

○世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画（令和2年7月17日閣議決定）

I-7（3）デジタル格差対策：「**年齢、障害の有無、性別、国籍等に関係なく選定したICT分野における「大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな技術課題」に対する挑戦を、その地球規模での発信と併せて支援する。**」

II-（9）研究開発：「**挑戦への取組を支援する「異能vation破壊的挑戦」プログラムを推進。**」

○知的財産推進計画2020（令和2年5月27日知的財産戦略本部決定）

3. （1）創造性の涵養/尖った人材の活躍：「ICT分野において地球規模の価値創造を生み出すため、「大いなる可能性があり、奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦」を支援し、上記趣旨に賛同する様々な団体からなる「**異能vationネットワーク**」等により、全国隅々から異色多様な尖った人材を発掘するとともに、オウンドメディア等を活用し、尖った人材を地球規模で発信する。」

○経済財政運営と改革の基本方針2020（令和2年7月17日閣議決定）

第3章3. （2）科学技術・イノベーションの加速：「ムーンショット型研究開発及び創発的研究の支援により、**破壊的イノベーションにつながる成果を創出する。**」

石井 洋介 (R1) :

健康を管理するアプリゲーム「うんコレ」

うんコレは、モバイルRPGゲームと予防医学を組み合わせたものです。バクテリアと戦い、日々の健康状態を記録することで、戦闘に役立つアイテムや、より健康的な生活を送るための情報を得ることができます。



古澤 洋将 (H27) : 生体群制御

バイオグループコントロールと呼ばれる技術を用いて、電気触覚を利用して魚を目的の経路に沿って誘導します。



瀬島 吉裕 (H30) :

人を惹きつける瞳輝インタフェース

人間の目は、豊かな感情を内包する器です。技術の進歩に伴い、光学インタフェースでも同じ感情を伝えることができるのでしょうか？



鈴木 完吾 (R1) : からくり書き時計

歯車やアームなど、さまざまな機構が複雑に絡み合った自動書記の時計です。1分ごとに時間が消され、新たに描かれる、からくり時計です。



亀岡 嵩幸 (H30) : 尿失禁感覚再現装置

世界中の何百万人もの人々に影響を与えている排泄障害の理解を深めることを目的に、失禁体験装置を開発しました。



谷口 和弘 (H26) : 耳飾り型コンピュータ

イヤラブルは、あらゆる種類の生体情報を測定するコンピュータモデルのイヤリングです。噛んだり、まばたきをしたり、舌で上顎を押ししたりと、ハンズフリーでソーラー発電のデバイスを操作することができます。



市原 えつこ (H28) :

大切な遺族に寄り添える、デジタルシャーマン

デジタルシャーマンは、ロボットにデータが与えられると、49日間の仏教的な再生への移行期間が始まり、家族は大切な故人との時間を過ごし続けることができます。



的場 やすし (H29) : 流動床インターフェース

砂のベッドと空気のポンプが混ざり合っ、CGIとは思えないほどユニークな現象を生み出します。的場やすし氏の流動床の研究は、仮想現実と拡張現実でユニークな体験を生み出しました。



村木 風海 (H29) : 温暖化対策を身近に

— CO2直接空気回収マシン CARS-a —

温暖化問題には諸説あるが、少なくとも1人1人の意識を変えることが解決には不可欠である。「ひやっしー (CARS-a)」と呼ばれるこのマシンは、ボタンを押すだけで大気中のCO2を回収することができる。



ロジックモデル

現状把握 ・課題設定	イン プット (資源)	アクティビティ (活動)	アウトプット (活動目標・実 績)	アウトカム (成果目標・実績)	インパクト (国民・社会へ の影響)
<p>米国ICT企業 GAFAMの時価 総額は約560 兆円。東京証券 取引所1部上場 企業約2170社 の合計550兆 円を上回る。 (2020年)</p> <p>我が国には、協 調性がある・信 頼性を重視し慎 重に推進するな どの考えと、「出 る杭は打たれる」 「失敗を恐れる」 などの文化が存 在し、破壊的 ICTイノベーシ ョンが生まれにくい 状況。</p> <p>出る杭を認め、 失敗を恐れずに 挑戦する雰囲気 を国が率先して 醸成していくこ とが重要</p>	<p>総務省 予算 300 百万円 (R2)</p>	<p>① ・ポストコロナ時代 における世界的な 産業・社会変革 が起きる中、スター トアップ前の優れた アイデアを発掘し、 世界規模の新たな 価値を創造する 大いなる可能性が ある奇想天外でア ンビシャスな破壊 的ICTイノベーシ ョンへの挑戦を支援 (最長1年、 最大300万円) ・卒業評価を通過 した者を異能βとし て認定。</p> <p><応募件数> H26: 710件 R2: 18,154件 (26倍増加)</p> <p><応募件数累計> 55,000件 (H26-R2)</p> <p>② 官・民・地域・ グローバル連携を 推進。</p>	<p>①KPI進捗 応募倍率10倍 以上※一般に政 府系R&Dは3- 5倍程度 <達成状況> H26: 71倍 R2: 166倍</p> <p>②KPI効果 ・官・民・地域・ グローバル各々 において参加す る団体がそれぞ れ1以上。 <達成状況> 官1,民182,地 域51,グローバ ル2(R2)。</p> <p>・全応募数のう ち、社会展開・ 実装を目指す 課題の割合5割 以上。 <達成状況> H26:32.5% R2:91.2%</p>	<p>【短期】 ①効果的な評価・支援システムの確立 ・応募要件は「個別連絡先が存在する者」。 ・評価は年齢制限なし、過去の経歴不問、国籍不問。スーパーバイザーの経験に基づく直感により、何も無いところゼロからイチを創造する挑戦者を評価。 H26-R2: 挑戦課題累計7,685件を評価</p> <p>②官・民・地域・グローバル連携する異能vationネットワークの構築。 ・協力協賛企業数はH26の67団体からR2は182団体と3倍に増加。 ・民間の自主的な取組であるちょっとした変わったアイデア等を協力協賛企業が表彰するアワード賞の設置。R2はノミネート223件、受賞33件。</p> <p>【中期】 ① ・挑戦後の評価を経て卒業生(異能β)を69名選出。卒業後に起業する割合7割(プロの研究者を除く)。合計62億円の資金調達(~R2)。 ・協力協賛企業が自ら設定する課題に失敗をおそれず挑戦する課題設定型コンテストを設置。企業が拠出する賞金総額 約1億2千万円(R2)。</p> <p>② ・これらの取組がトリガーとなり、民間の自主的な取組が広がりを見せ、異能vationネットワーク拠点が53カ所まで拡大。地域毎の取組を推進。また、地域間の連携を推進し自主的にイベント等を開催。 ・ネットワーク拠点などや報道などにより、延べ約652万人以上にリーチ(日本人口の6%以上)。 ・14億円相当の民間負担 ・インドネシアと閣僚級のMOCを締結し、国際的に政府間で認知される水準に。インドネシアの取組は19億円。今後は他のASEANなどにも働きかける予定。</p> <p>【長期】 日本国民の誰もが知るプログラムとなり、 ①②学校や企業内で誰もが「失敗を恐れずに挑戦する」ことが浸透</p>	<p>①②破壊的な 世界規模の価値 創造を生み出す 異色多様な才 能の発掘や応募 者が挑戦できる 環境を整備し、 破壊的イノベ ーション創出のモ デルケースを示す ことで、我が国発 の破壊的なICTイ ノベーションに挑 戦する雰囲気 を醸成。</p> <p>②尖った才能の 変わったことへの 挑戦を認め褒め る社会文化の醸 成のため、破壊 的なICTイノベ ーションに挑戦 する雰囲気 を醸成する裾野 の拡大。</p>